野外観察の準備

関連単元
1.身近なしぜんのかんさつ
○植物の育ちとつくり
○自由研究 でかけよう しぜんの中へ
○いろいろなこん虫のかんさつ
○植物の一生
1.春の自然(4年)
○夏の自然
○秋の自然
○冬の自然

事故防止と観察を支障なく進めるために

1 場所選定の注意点

- 観察の目的を達成するのに適した場所であるかどうかを確認する。
  ⇨事故要因のない場所を原則とする。
  ⇨観察する人数がゆとりをもって活動できる広さがある。
- 観察場所に危険な場所はないか，危険な動物がいないか，危険な植物が生えていないか等を確認する。
- 天候急変時の緊急避難場所の有無を確認する。
- 付近のトイレの有無を確認する。
- 観察場所の所有者を確認する。
  ⇨私有地なら所有者と連絡を取り，公有地なら管轄(かつ)の役所に使用許可をもらう。
- 休憩する日陰の場所を確保する。水飲み場の確認をしておく。

危険な場所

避難場所

2 計画立案での注意点

- 学校から観察場所までの道順と所要時間を確認する。
- 要領よく確かな観察ができるように事前指導を十分する。
  ⇨観察の仕方，採集の仕方，記録のとり方，用具の使い方等。
  ⇨現地で活動するときの約束事を決めておく。
  ⇨地域の人材を活用し，効率よく観察できるようにする。
- 観察時間は，児童が余裕を持って行動できるように計画する。
- 非常時の連絡方法を確認する。
- 地域の人と連携し，行き帰りの安全を確保する。

3 持参物の注意点

- 観察に持参する用具は，目的に応じて必要最小限なものに絞る。
- 持参する救急バッグ(箱)に，必要な薬品・用品がそろっているか点検しておく。
- こまめな水分補給をするために，水筒を持って行かせる。

最寄りの医療機関，公共施設などを登録しておく。

4 服装の注意点

〈山や草原の場合〉
- 履き慣れた運動靴，厚い靴下，長袖の服，長ズボン，作業用手袋，帽子という服装がよい。
  ⇨半袖の服，半ズボンという服装では，毒草によるかぶれや木々による擦り傷，吸血動物の吸着などの被害が予想されるので着用させない。

〈川や池の場合〉
- 長袖の服，長ズボン(水に入る場合は半ズボン)がよい。
- 履き物は，水に入らない場合はふだんの運動靴でよいが，水に入るときは，靴底に凸凹がある滑りにくい運動靴がよい。この場合，ぬれるので替えの靴を持っていく。
  ⇨サンダルは脱げやすく，滑りやすいのでよくない。

〈海の場合〉
- 服装は，厚い靴下(くるぶしの保護)，長袖の服，長ズボン，作業用手袋，帽子という服装がよい。
- 靴は靴底が厚く凸凹して滑らないものがよい。裸足やサンダル，底の平らな靴は禁止する。
  ⇨磯では付着した藻類で岩が滑りやすくなっている。滑って転ぶと岩に付着しているフジツボなどで大けがをするおそれがある。

〈花粉症(アレルギー)の対策〉
- 花粉症(アレルギー)をもっている児童には，マスク，アレルギー用めがねを使用させる。
- 活動中は，むやみに花粉を散らさないよう指導する。

野原に出かけるじゅんび

● よくかんさつをするために

1 かんさつのためのじゅんびをする。

- かんさつやきろくのしかたについて話し合う。
- 虫めがねの正しい使い方をふく習する。
  ⇨虫めがねでぜったいに太陽を見ない。
- かんさつするときのやくそくごとを決める。
  ⇨自分かってな行動をとらない。
  ⇨集まる時間を守る。
  ⇨ひつようい上に虫や草花を取らない。
  ⇨土をほりおこしたら，かならずほったあとをうめてもどしておく。
  ⇨決められた場所で活動する。
  ⇨ひとりではなれた場所に行かない。
  ⇨むやみに走りまわらない。

2 服そうに気をつける。

〈野原に行くとき〉

- 服そうは，長そでの服に長ズボンをはき，ぼうしをかぶる。足まわりは，あついくつ下にはきなれた運動ぐつをはく。
- 作業用手ぶくろも持っていく。
- かんさつに使う虫めがねは，ひもで首からぶらさげるようにするとよい。

〈川に行くとき〉

- 服そうは野原に行くときのものと変わらないが，水に入るときは，半ズボンをはき，そこにでこぼこがあってすべりにくい運動ぐつをはく。
  ⇨サンダルはぬげやすく，すべってあぶない。

〈海に行くとき〉

- 服そうは野原に行くときのものと変わらないが，くつは，そこがでこぼこのすべりにくいものがよい。
- 日射病や熱中症を引きおこさないために，かならず水とうを持って行き，こまめに水分ほきゅうをする。

水にはいるとき